

Topics

トピックス



前身校である長崎高等商業学校から引き継いだ貴重な洋書も保管されており、館内にて閲覧可能です。

長崎大学附属図書館の 経済学部分館が リニューアル

百十年以上の歴史を誇り、貴重な文献を多数保管している、長崎大学附属図書館の経済学部分館。老朽化に伴う改修工事を終えて、六月にリニューアルオープンしました。一階には明るく広々としたラーニング・コモンズや、予約制のグループ学習室を設けており、

自由に会話やディスカッションができるフロアとなっています。中央の情報サロンでは飲食も可能。また、長崎学資料展示室には、以前の武蔵文庫展示室にあった貴重な資料が展示されており、長崎ならではの歴史と文化に触れることができます。さらに、展示室の二次元

コードからアクセスすることで、クイズに答えながら展示物の知識を楽しく深められるeラーニングシステムも新たに設けられています。約五万五千冊もの開架書架が集約された二階は、勉強や調べものに集中できる静かな空間。一〇三

壁一面がホワイトボードになっており、講義で利用されることもあるラーニング・コモンズ。奥にはゆったりとしたソファ席があり、快適に過ごせます。

席の閲覧席はすべて個人席とするなど、感染症対策も考慮しています。大きな窓からは明るい陽差しが入り込み、より開放的な空間となりました。南森茂太経済学部分館長は、「知の交流拠点、知の発信拠点として、多くの方々に利用していただければ」と話します。



写真上/これまで分散していた開架書架を2階に集約することで、利便性が向上しました。右/レトロで重厚な雰囲気の中長崎学資料展示室。1階に配置されたことで、一般の方も含めてこれまで以上に足を運びやすくなりました。

RENEWAL

キャンパスモール整備計画コンペ 未来に残るアイデアを募集

文教キャンパスの中心ともいえる、教育学部棟と教養講義棟の付近エリアの整備計画が進行しています。長崎大学を代表するシンボリックなスペースを目指して、長崎大学に在籍する学部生、大学院生、教職員、卒業生から、未来に残るアイデアを募集中。優秀賞に選ばれた場合には、整備計画の検討作業に参画できるチャンスもあ

ります。教職員と学生、大学と地域が交流を図る、にぎわいのスペースが完成するまでの過程にも注目してください。



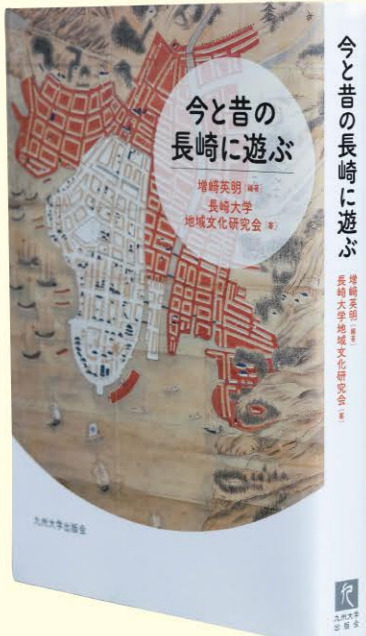
今と昔から学び取る 学問としての 長崎の魅力

文理の枠組みを超え、さまざまな分野の研究者で構成された長崎大学地域文化研究会。長崎学の発展を目指して、歴史や文化の深みから長崎の町を捉え直してみようと始まった活動は、今年で三年になります。昨年には、活動の一環として、一年次の自由選択科目「今と昔の長崎に遊ぶ」がスタート。その授業を書籍化したのがこの本です。第三章「近世貿易都市長崎の特質を考える―尾曲がり猫はどこからきたのか―」を執筆した、多文化社会学部の木村直樹教授に話を聞きました。

BOOK

「全十七章、さまざまな切り口があり、私自身も読んでいて面白く感じました。例えば、時代が変化する過程では、ある段階から事実が別の意味を持って塗り替えられ、現代においてそれが正しいように捉えられていたりもしますが、そのような課題に対する問題提起が書かれた章もあります。そういう点も含めて、長崎には学ぼうと思えばいくらでも興味の種があるのです。ぜひ、長崎の学問的な魅力をこの本から学び取ってほしいですね。」

『今と昔の長崎に遊ぶ』増崎英明編著／長崎大学地域文化研究会著(九州大学出版会)定価2,640円(本体価格2,400円)。長崎大学生協、一般書店にて販売中。研究者17人が最先端の研究を基に執筆した文章は切り口もさまざま。第11章では、Chohoでもおなじみのグラバー図譜の成立背景や、当時の長崎の社会情勢などについて、山口敦子教授がつつついます。



CALL FOR IDEAS